

授業料不徴収協定に基づく派遣交換留学終了報告書

氏名	町田 和俊
留学先国	シンガポール
留学先大学	シンガポール国立大学
留学期間	2008年8月6日(Summer Program も合わせると7月13日)～2008年12月4日
報告年月日	2009年1月28日

派遣留学報告書

① 留学先大学についての概略

シンガポール国立大学(NUS)はアジアを代表する総合大学で、Times Higher Education「世界の大学ランキング 2008」でも 30 位(UCLA と同位)にランクされるなど、欧米一流大学に見劣りしない評価を得ている。NUS には理学・工学のほか医学・芸術・ビジネススクールまで幅広い分野が学べる。チャイニーズ・マレー・インド系の現地学生の他、交換留学生在が毎年千人近くいて(半数は欧米人)、キャンパス内は非常に国際的な雰囲気となっている。

授業は欧米のシステムに近く、ディスカッション中心の Tutorial やグループワークが多いのが特徴。

シンガポールは、今後世界の経済成長の中心となるアジアにおけるビジネスのハブ的役割を果たす都市国家であり、その多民族性や、小さい国土に投資を引き込むための戦略的な政策が特徴で、日本とはかなり性格の異なる国である。シンガポール人は共通言語として英語を話すが、チャイニーズ系(7割)は中国語なまりの独特の英語(Singlish)を話す。大学ではナショナリティーによって色々ななまりが混在しているが、みなれっきとした英語で、逆にいろんな英語に触れられるのは一種の強みとも考えられる。またここは、アジア中からやってくる人々と出会うのにも、また合間に旅行するなどにも絶好のロケーションで、アジアの一員としてまずはアジアを知りたい！という方にオススメの場所となっている。さらに、国が学生に対して起業をかなり推奨しているので、起業について学ぶ機会がたくさんある。それから、チャイニーズが多いので、英語と一緒に中国語を学ぶ留学生も多い。



NUS の University Hall



交換留学生のオリエンテーションの様子
(総数はこの写真の軽く10倍以上)

② 留学前の準備

留学前に助言教官の先生と相談して、留学をどのようなスケジュールで行うかをよく考えた。個人的な要望から学部での留学を希望していたので、それで自分の所属する学科のカリキュラムが中途半端になるのを避けるために1年卒業を延ばすことを決めた。その場合、春休みも含めて3~7月までの期間が空くことになるので(NUS の授業は8~12月、1月~5月の2学期)、先生には先に研究室に所属して、1年留学し、6月に帰ってきてからまた卒業研究を再開することもできると言われた。しかしながら、これも個人的な要望で研究室に所属せずに留学したかったので、3~7月の期間は、英語の勉強や旅行・留学資金のためのバイトなどで過ごした。

大学院に行くことは決めていたので、就職活動や大学院入試の対策などはこれと言って行わなかった。

NUS とシンガポールに関する情報は、まず NUS に交換留学に行った東工大の先輩や YSEP で来ている NUS の学生などとコンタクトを取り、話を聞いた。その他の細かいところはもっぱらインターネットで調べた。就学ビザの取得や、大学の寮の申し込み、授業の事前申告などは NUS から送られてくる交換留学生用のガイドの冊子に従って手続きをしていって、それで特に問題なく留学に突入できた。

一点、気をつけてほしいのは、航空券を片道だけ買って空港に行ったところ、帰りの航空券(や少なくともシンガポールを出国するチケット)が必要と言われて、シンガポール発マレーシア行きのチケットを買って、その後リファンドするというややこしいことになった(プラマイゼロで余分な支払いはしていない)。そのため留学期間が長いとか、途中で旅行をして違う国から日本に帰ろうとしている人なども、日

本からの往復チケットを買っておいたほうがスムーズだと思う。(買わなくてもどうにかなるだろうが...)

③ 留学中の勉学

私は学部の交換留学生として在籍しており、次の4つの授業を初め登録した。

1. Professional Communication
2. Geographies of Development
3. Environmental Engineering 2
4. Introduction to Politics

クラスは基本的に通常の講義のほか、ディスカッション中心の少人数の Tutorial がある。3は Tutorial はなかったが、1に関してはすべてのクラスが少人数(20人程度)の Tutorial だった。課題は、文型の授業なら Reading Assignment が多く、3などはクイズがほぼ毎回出された。グループワークも多く、これにかなりの時間を食った。語学の問題もさることながら、相性の悪い人と同じグループになると意思疎通する気力すら失うので苦労した。しかし、全体としては日本の雰囲気と比べれば、クラスの学生の構成がバラエティーに富み、また授業も Interaction と学生の Feedback を大切にしているので、とても刺激的であった。特に1などはブログ作成なども授業に取り入れていて、面白かった。

各授業に関してだが、1は実践的な英語の授業という位置づけで、英語力向上に非常に役に立った。2は以前から勉強したかった開発学の入門の授業で、今回のメインのようなクラス。3は専門に近いところのクラス。4は、面白かったが、膨大な Reading Assignment と英語での高度なディスカッションについていけずドロップアウトした。



Professional Communication のクラスのグループメンバー

④ 留学先での語学状況

シンガポールでは、基本的に生活も授業も英語が使われるが、国民の7割のチャイニーズはマンダリンを話すことも多いので、多少の中国語は話せた方がいいのかもしれない。逆に漢字を書けばいたい伝わるというのは困ったときに助かる。

留学前の英語力は TOEFL iBT で 87 点(応募時ベストは iBT62 点、PBT560 点)で、NUS の基準となる 100 点に届いていなかったが、東工大の留学生課の先生に Language Proficiency Statement の書類にサインしてもらってそれを提出し、手続きは問題なくパスできた。しかし、このレベルだと序盤でかなり苦労した。私は2週間のサマープログラムで英語の授業と会話にやや慣らすことができたが、それでも序盤の授業の聞き取りなどには相当苦労した。会話の方は、ルームメイトと英語で頻繁にやりとりがあったので、上達は早かったように思う。が、文法力は向こうにいる間ほとんどやらないのでかなり落ちた気がする。

結局、誰でも留学先での生活や授業で実際に英語を使わない限り実践的な英語力をつけるのは難しいので、行く前に文法・単語・イディオムの知識を詰め込んでおくことが大事なのではないか。それがあれば Fluency は使っているうちに勝手についてくるはず。

⑤ 留学中に行った勉学・研究以外の活動

旅行はたくさんした。留学前の期間を利用してインド・ネパール、留学期間中にはインドネシア(Bali, Central Java)、留学終了直後にオーストラリア(シドニーのみ)・バヌアツ・フィジーを一人旅した。(他の交換留学生では、グループで香港・ベトナム・カンボジア・ラオス・マレーシア・ブルネイなどに行く人が多いようだった)

それから、サマープログラム中でのシンガポール国内の大手企業・政府機関の訪問、バイオディーゼルのベンチャー企業の訪問、起業している学生のために HP 用の資料の和訳、日本語のクラスの会話のアシスタント、環境サークルのイベン



NUS サマープログラム参加者
中国人とパキスタン人多し!

トへの参加、NUSの交換留学プログラムのイベントで日本の大学ブースの手伝い等々を行った。

⑥ 留学費用について

純粋な留学の費用は私の場合、1学期で68万円程度だった。フライト(行き帰り別で購入して約13万円)・保険(7万6千円)・家賃(月約3万円)など大口の出費を除き、一ヶ月の生活費(飲み代なども含む)は為替レートにもよるが5~6万円で、受け取っていた東工大からの奨学金(月額8万円)で十分まかなえる範囲に収まった(下表参照)。

行きのフライト	66,240
荷物超過料金	25,700
留学保険	76,640
大学の集団保険料&施設利用料	7,062
寮の家賃(1semester)	約 143,000
教科書	約 16,500
携帯電話(Body+Top-up card)	約 10000
生活費約 4.5ヶ月	約 250000
帰りのフライト	68,293
荷物郵送	約 18,000
Total	約68万円

注: 留学期間中、1シンガポールドル=平均約75円(金融危機前約80円、危機後約60円)

これには、東工大に支払う授業料1年分 535,800円(交換留学の場合正規の授業料はNUSに払わず、東工大に払う)、2週間のサマープログラム(約14万円)と旅行の出費は除いている。旅行は、短期間にいろいろと回ろうとするとフライトのチケット代がばかにならないので2週間で30万円とか使ってしまうこともあった。(旅行の出費は個人差が大きいですが、総じてツアーは安く、一人旅は高くなりがち。ただし一人旅の方が自由度が高いので満足度も大きいし、全部自分でやることによって経験値も高くなる。)

⑦ 留学先での住居について

キャンパス内にいくつかの寮があり、授業の始まる3ヶ月くらい前からインターネットで申し込みできる。私の場合、それにもれてキャンパス外の寮(大学の管理するマンション)を打診され、そこに1学期住んだ。これにはキャンパスまでをつなぐ無料のシャトルバスが朝夕あるので、それほど不便には感じなかったが、やや大学の友達と会う機会が減った。そのマンションはほとんど同じNUSの交換留学生で、ルームメイトは、イギリス人、オランダ人、スイス人だった(スイス人は途中でキャンパス内に引越し)。

交換留学生は中国人が多かったので、このルームメイトのめぐり合わせは、英語の学習環境と言う意味では幸運であった。



ルームメイトの一人(イギリス人)と滞在先で

⑧ 単位認定、在学期間について

私の場合は、卒業を一年延ばしているため、自分の学科の研究室所属のための単位はほぼ取り終えており、留学先で取得した単位の互換は行わない予定である。

⑨ 就職活動について

卒業論文でもう一年東工大で過ごした後、そのまま大学院に進学する予定なので、特に就職活動は留学前後に行っていない。

⑩ 留学先で困ったこと

1年ほどの留学ならば現地で銀行口座を開くのがいいと思うが、私の場合1学期とやや短い期間だったので、現地の生活費はクレジットで現金を引き出すなどしていた。その際、使用限度やクレジットの引き落とし口座の残金の管理などでトラブルがあった。そのため一ヶ月の使用限度(カードでの買い物、現金引き出し)の引き上げをして置くことや、残高がなくならないように振込みなどを両親に頼んでおくなど、現地での生活費に関して事前によく準備しておくことをお勧めする。

⑪ 派遣交換留学を希望する後輩へアドバイス

留学中のできごとや、帰国後留学を振り返って書いたブログがあるので参考にしてください。

どこの国に行くにしてもいろいろ役に立つことが書いてあると思います。

http://pub.ne.jp/kaz_22/



帰りの飛行機にて—地球は広い。しかし、今や世界は狭い。日本の外を見ないのはもったいない！